

令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

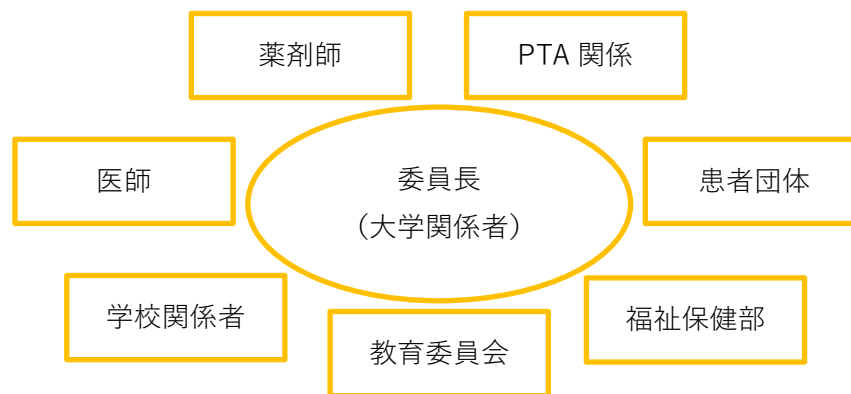
1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（計19名）

大学教授1名、医師（内科医）1名、薬剤師1名、がん患者団体1名、
PTA（中、高等学校）代表2名、校長（小、中、高等学校、特別支援学校）4名、
保健体育主事部会代表1名、養護教諭部会代表1名、県福祉保健部健康政策課1名、
教育委員会事務局6名



2. 開催時期、検討内容

○第1回がん教育推進協議会 令和6年8月8日（木）

【報告】・令和5年度がん教育等外部講師活用連携支援事業 ・令和6年度出張がん予防教室

【説明】・令和6年度外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業の計画

・令和6年度出張がん予防教室の計画

【協議】・学校におけるがん教育推進について

○第2回がん教育推進協議会 令和7年1月30日（木）

【報告】・令和6年度外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業

・令和6年度出張がん予防教室

【説明】・令和7年度外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業の計画

・令和7年度出張がん予防教室の計画

【協議】・令和7年度の事業実施に向けたがん教育の充実について

② 教育委員会としての取組

○がん教育啓発研修会（非集合型オンデマンド配信）の開催

学校においてより効果的ながん教育が実施されるよう、指導内容の充実と教職員等の正しい理解を図ることを目的に研修会を開催した。

<研修会の概要>

(1) 配信期間 令和6年11月18日（月）から令和7年1月31日（金）まで

(2) 説 明 「学校におけるがん教育の推進に向けて」

鳥取県教育委員会事務局体育保健課

(3) 講 議 「学校におけるがん教育の実際

～カリキュラム・マネジメントを踏まえた指導の在り方を中心に～」

学校法人二階堂学園 日本女子体育大学

体育学部健康スポーツ学科教授 助友 裕子 氏

○がん教育公開授業及び講演会の開催

県内で2校（中学校1校、高等学校1校）を推進校とし、外部講師を活用した授業公開及び講演会を開催し、がん教育実践を県内に発信した。

＜参加対象者＞

小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員、がん教育外部講師、医療関係者、市町村（学校組合）教育委員会の健康教育担当者等

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○県福祉保健部との連携

- ・県福祉保健部が主催する「出張がん予防教室」を各学校へ周知し、啓発研修会で紹介した。
- ・「出張がん予防教室」の外部講師と県教育委員会の外部講師リストを令和5年度から共有。
- ・学校での取組等を情報共有し、がん教育推進について協議した。

(2) モデル校における取組

① 鳥取県立倉吉東高等学校 令和6年10月24日（木）

＜取組の内容＞

(1) 公開授業 保健体育科・科目保健 現代社会と健康「生活習慣病などの予防と回復」

(2) 講演会 「がんについて正しく知ろう！～看護師として伝えたいこと～」

がんの不安に寄り添う「がんのコト。」 代表 平尾 敦子 氏

【主な内容】

がんという病気、がんの原因、がんの予防、がんの治療、がん患者についてのエピソード 等



まず、保健体育科の授業において、がんに対してのイメージを共有し、「治りにくい」、「怖い」などのイメージがあるからこそ、がんについて正しく理解することの大切さを伝え、グループ活動としてがんの発生要因やリスク、予防策について調べ学習をした。最後に調べた内容をグループごとに発表し、その際、外部講師である平尾氏が生徒の発表した内容について助言や新しい情報の追加等を行った。また、授業中に生徒から出た質問に回答するなど、生徒と対話しながら授業を展開した。

講演会では、看護師としての立場から、がんの専門的な知識やがん患者及びその家族の気持ち等について実際のエピソードを交えながら、健康や命の大切さについてお話いただいた。

② 倉吉市立東中学校 令和6年12月17日（火）

＜取組の内容＞

(1) 公開授業 保健体育科・保健分野 「生活習慣病などの予防」

(2) 講演会 「がんについて正しく知ろう！～看護師として伝えたいこと～」

がんの不安に寄り添う「がんのコト。」 代表 平尾 敦子 氏

【主な内容】

がんという病気、がんの原因、がんの予防、がんの治療、がん患者についてのエピソード 等



保健体育科の「生活習慣病などの予防」の授業において、生徒を「がんという病気」、「日本のがんの状況」、「がんの発生と進行」、「検診の目的」について調べる4つのグループ分け、グループ学習を行い、最後にそれぞれのグループが調べた内容をクラス全体で共有した。調べ学習には信頼性の高い資料を使用するため、事前に指導者が準備したものを使用した。

授業後の講演会では、看護師としての立場から、がんの専門的な知識やがん患者及びその家族の気持ち等について実際のエピソードを交えながら、健康や命の大切さについてお話いただくとともに、同世代の子どもをもつ1人の母親としての立場から、家族の大切さをお話いただいた。

2 事業の達成度について

(1) 外部講師の活用体制の整備

学校が外部講師を活用したがん教育に取り組みやすいよう、県事業である「出張がん予防教室」の外部講師と県教育委員会の外部講師リストを共有した。実際に「出張がん予防教室」を活用し、公開授業で外部講師として関わっていただいた平尾氏の派遣を依頼する学校が複数あった。

(2) 外部講師及び教職員に対するがん教育啓発研修会の開催（オンデマンド配信）

＜参加者＞ 計32名

小学校10名 中学校15名 高等学校5名 特別支援学校1名 その他1名

＜アンケート結果＞ 回答者32名

- ・満足した 19名 (59.4%)
- ・概ね満足した 13名 (40.6%)
- ・あまり満足できなかった 0名 (0.0%)
- ・満足できなかった 0名 (0.0%)

＜参加者の感想（一部抜粋）＞

- ・保健体育の授業に活かす等、保健体育や校内分掌等の先生方と情報共有し連携しながら、できることから取り組みたい。
- ・イノベーション普及理論を初めて知った。健康教育について協力を得たい場面はよくあるので、同僚性を育むという視点も含めて行動していきたい。
- ・ゲストティーチャーを呼ぶ意義や周りに話すことでさらに深まる学びができることを改めて感じ、児童の将来に向けた生活に反映できるよう学校全体として今後の教育計画を検討していきたい。
- ・正しい知識や技能の種をまき、一人ひとりが考えることができる力を育てていけるように日々の教育の実践をしたいと思います。その際、配慮が必要なこともしっかりと把握して取り組みたい。
- ・たくさんの参考資料やホームページの紹介があったので、少しずつ校内でできることを考えて相談していくことができたと思う。
- ・がん教育を行うにあたって、子どもたちの身近な存在の方ががんにかかっていたらと配慮しながら十分に気をつけながら進めていかなければいけないと改めて感じた。

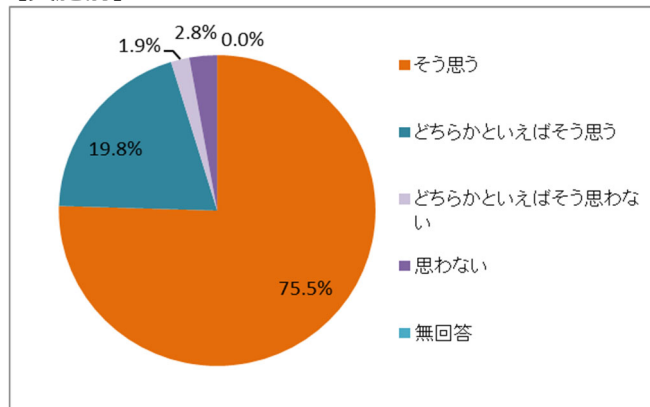
(3) がん教育公開授業及び講演会の開催

授業及び講演会の実施前と実施後のアンケート結果（一部抜粋）を比較すると以下の結果となり、がん教育の重要性やがん検診に対しての意識の高まりが見られた。また、事後の感想には、学習したがんについての知識に加え、命や健康について考えた内容やがん患者に対する気持ちの変化等の内容が多く見られた。

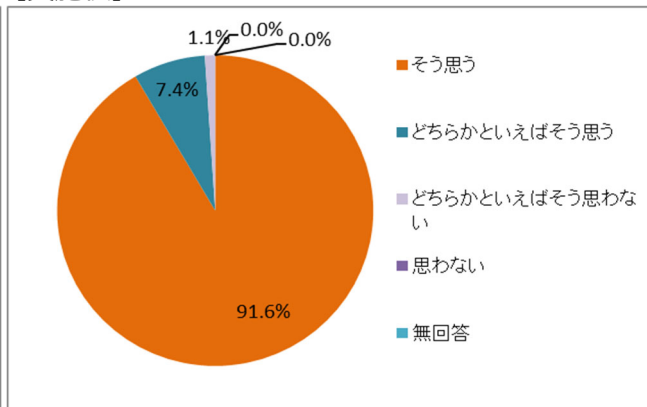
<事前・事後アンケートの結果>

Q. がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。

【実施前】

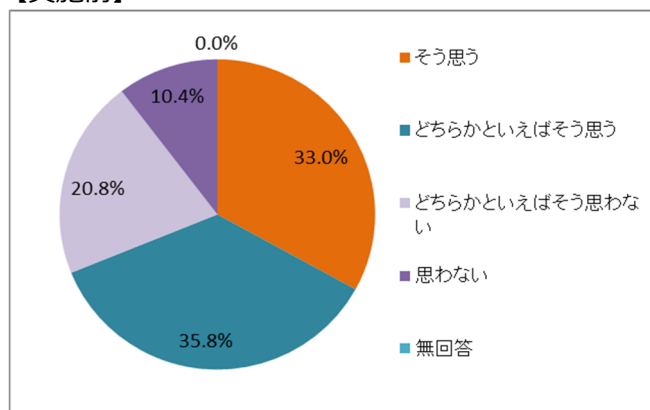


【実施後】

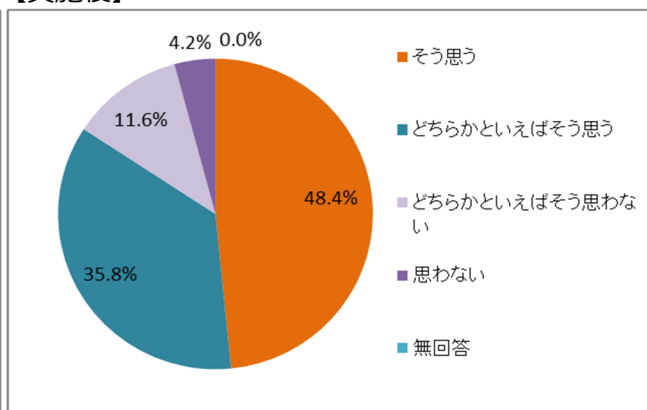


Q. がんになっても生活の質を高めることができる。

【実施前】

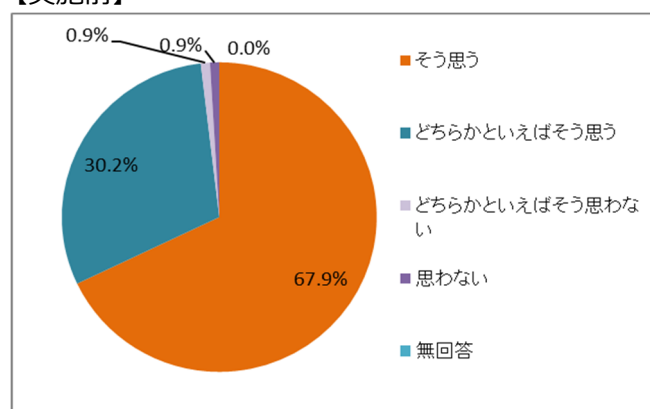


【実施後】

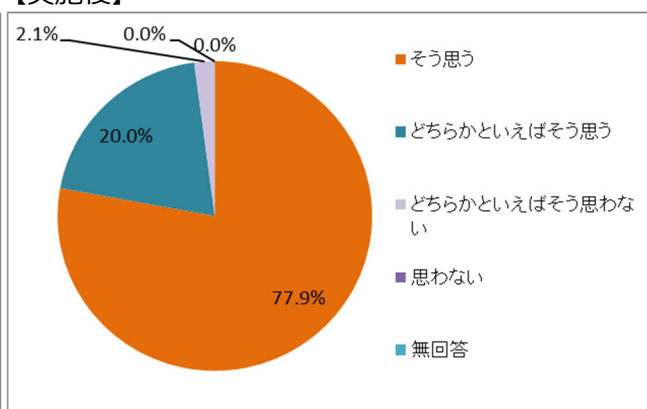


Q. がんになっている人にも過ごしやすい世の中にしたい。

【実施前】



【実施後】



3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

- 啓発研修会の参加者や推進校の授業担当者は、がん教育の重要性や外部講師を活用することのメリットを感じているが、全ての学校に広がっているわけではない。がん教育は体育・保健体育の授業内で完結するものではないため、全職員共通理解のもと、特別活動や特別の教科道徳等と関連付けながら、学校の教育活動全体を通じて行うという意識を持って取り組めるよう、引き続き研修会や公開授業等を開催し、普及啓発を図っていく。
- 啓発研修会の開催方法については、今後もオンデマンド配信とし、視聴者を増やすために配信期間の延長や開催案内の工夫等について検討する。
- 医療機関やがん患者団体と連携しながら、外部講師リストの充実を図る。